

**第 2 回西和保健医療圏地域医療構想調整会議における主な意見****【医療提供体制の構築】**

○ 2025年の医療需要の推計で、現在は大阪に生活の拠点があるので患者の流出が発生しているが、今後高齢化が進んでいくとその動向がどうなるのかははっきりしないと思う。県内で医療を受けたいと考える人が増えるかもしれないが、そのような変化を評価、判断すべきである。

→ 都道府県間の患者の流出入の調整については、患者の受療動向が変わったことが確認できれば再度協議するように他府県と話をしている。

**【在宅医療の体制構築】**

○ 在宅医療の受け皿を2025年までの9年間に整備できるのか、整備できなければ医療を受けることができない人が出てくるので、もう少しゆっくりと進めていくべきではないか。また、医療の動向データを頻繁に確認していく必要がある。

→ 西和構想区域では、西和7町が集まって医師会、西和医療センター、郡山保健所が参加して行われている在宅の取組を、構想達成が可能となるように進めていただきたい。また、患者の受療のデータについても国保等のデータを用いて確認できるように取り組む予定である。

○ 在宅医療について、西和医療センターにイニシアティブを発揮してもらって市町村長と医師会の意見交換会の場を設けてはどうか。市町村によって地域の課題が違うので西和医療センターが接着剤になって検討を進めていってはどうか。

**【在宅医療における病院の役割】**

○ 在宅医療を行っている医師が少ない市町村がある。西和医療センターでは在宅療養後方支援病院の届出をして支援している。

**【在宅医療の人材確保】**

○ 在宅医療を進めるに当たっては、訪問看護師が重要になってくるが、訪問看護ステーションが小規模であるので研修会や勉強会に参加しにくい状況があるのでそういう環境を整えていくことが必要である。